



文部科学省・外務省後援

第7回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート

世界交流大会 2022 報告書

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：

2021年1月21日(金)、22日(土)

会場：

オンライン開催 (Zoom)

主催：	一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
助成：	公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団
後援：	文部科学省、外務省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、 一般社団法人日本英語交流連盟、大阪府立大学

参加校とディベートチーム：15か国 24チーム (日本5チーム、海外19チーム)

日本	筑波大学附属駒場高等学校
日本	作新学院高等学校
日本	聖光学院高等学校
日本	鹿児島県立大島高等学校
日本	熊本第二高等学校
*オランダ	Wolfert van Borselen scholengroep / Rotterdam International Secondary School (branch of the school ARDOR - Romanian Association)
ルーマニア	ADROR – Romanian Association for Debate Oratory and Rhetoric
タイ	Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary)
モロッコ	Moroccan National Debate Team
モロッコ	Morocco Debate Association
コロンビア	Corporación Educativa American School

トリニダード・トバゴ	The Oxbridge International School
インド	Summer Fields School
*フィリピン	Caraga Regional Science High School
フィリピン	Timber City Academy
ウクライナ	Radowell Biotechnological Lyceum
ブラジル	Colégio Harmonia
*中国	【Joint】 Whittle School (Shenzhen) SongGang Chinese English Experimental School
タジキスタン	Dushanbe Economics Lyceum for Gifted Students
ベトナム	TH School
ウガンダ	Maryhill High School (C/O NDC Uganda)
ウガンダ	Mengo Senior School (C/O NDC Uganda)
ウガンダ	Makerere College School Mulawa (C/O NDC Uganda)
*ウガンダ	Nabisunsa Girls School (C/O NDC Uganda)

※=当日参加できなかったチーム



大会趣旨

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められています。

本大会では、パーラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供します。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人財育成とすることを目的とします。ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムであります。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらえれば幸甚です。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用います。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1 : **Parents should have the right to access their children's SNS.**

親は子供の SNS にアクセスする権利を持つべきである。

予選 2 : **Homework should be abolished.**

宿題を廃止すべきである。

予選 3 : **The development of AI weapons for military purposes should be banned.**

軍事目的の AI 兵器の開発を禁止すべきである。

予選 4 : **Companies should not do business with countries where there are human rights violations.**

企業は、人権侵害がある国と取引をすべきでない。

準決勝 : **Developing countries should take the same responsibilities as developed countries on global warming.**

地球温暖化について、発展途上国は先進国と同じ責任を負うべきである。

決勝 : **Space travel by the wealthy should be criticized.**

富裕層の宇宙旅行は批判されるべきである。

キーノートスピーカー :

Maram KAIRE 氏

セネガル出身、AfricaSpace CEO、天文学者、システムエンジニア

セネガル最高勲章受章

AfricanDOers 世界に最も影響を与えるアフリカ人トップ 500 に選出

セネガル人初、名前が小惑星に割り当てられた (Maramkaire)



1 日目（開会式、予選 3 ラウンド、文化交流、カルチャーナイト）

第 7 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会が始まりました。開会式では PDA 代表理事の中川智皓から挨拶と各国のチーム紹介（海外 15 ヶ国から 24 チーム、日本からは 5 チーム）がありました。その後ルールの確認も行われました。



開会式後、早速予選が始まりました。ディベート中は、POI（Point of Information）が活発に交わされ、白熱した議論が繰り広げられました。ディベートが終わりジャッジの先生からのフィードバックに移ると、次のラウンドに活かそうと真剣にアドバイスを聞き、改善点を自ら質問する意欲的な姿が見られました。

論題は「Parents should have the right to access their children's SNS. 親は子供の SNS にアクセスする権利を持つべきである。」、「Homework should be abolished. 宿題を廃止すべきである。」、「The development of AI weapons for military purposes should be banned. 軍事目的の AI 兵器の開発を禁止すべきである。」の 3 つでした。Zoom を使用して離れた国のチームとディベートをする経験は生徒たちにとって刺激となったようです。SNS・宿題・AI といった生徒たちにとって身近に感じられるトピックでありながらも、それぞれの話題に対して各チームが多様な視点から意見を述べ、さらなる知見をお互いに得ていました。

POI にも果敢に挑戦！





予選 1 ラウンド後に、休憩を兼ねた Zoom ブレイクアウトルームを用いた国際交流が行われました。フィリピンの生徒からウクライナの生徒に「ロシアとの現況はどうですか？」などと生の意見を尋ねる機会も見られました。オンライン開催で直接親交を深めることができない中でも、生徒たちは会話を弾ませ、異文化交流を楽しんでいました。

予選 2 ラウンド後のカルチャーナイト（世界の国々の文化紹介）では、各チームがさまざまな工夫を凝らしながら、伝統のダンスや歌、食の魅力や美しい景色、文化などを紹介し、お互いを知る機会となりました。中でも、ウクライナからの生歌披露は Zoom のチャット欄での賞賛が飛び交いました。民族衣装を身にまといながら発表をするチームも多く、鹿児島県の大島高校は、特産の大島紬でできた着物を着用し、コロンビアの生徒は美しい花飾りを頭につけ、タジキスタンの生徒は赤色の可愛いらしい民族衣装でプレゼンをしました。



大島



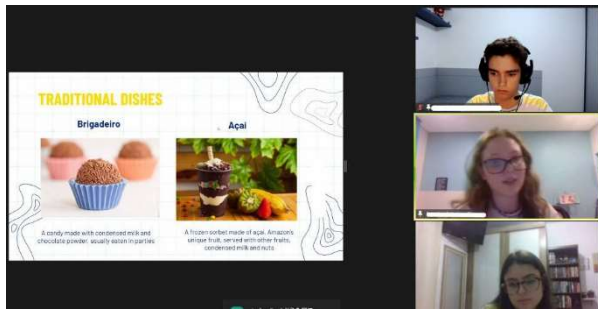
タジキスタン



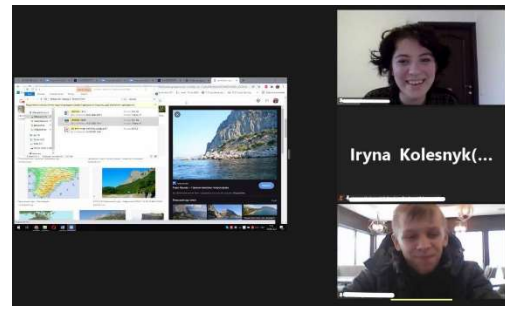
コロンビア



ウガンダ



ブラジル



ウクライナ



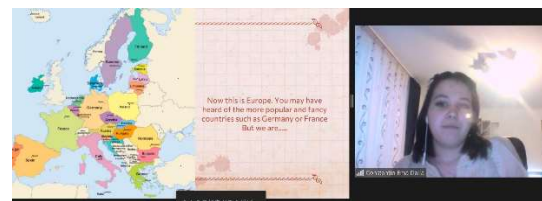
タイ



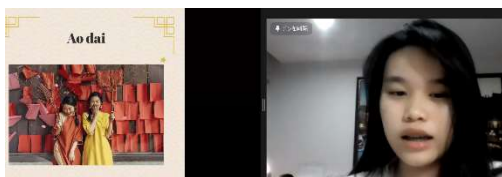
フィリピン



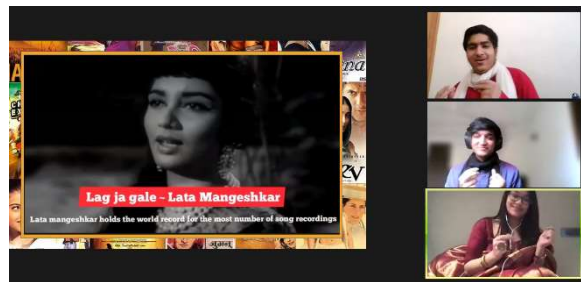
トリニダード・トバゴ



ルーマニア



ベトナム



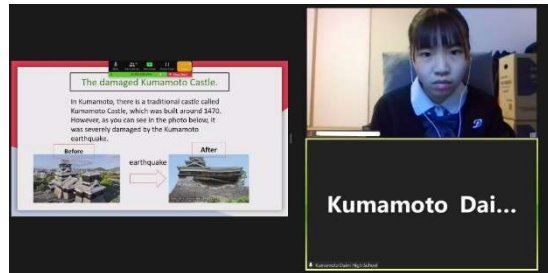
インド



モロッコ



作新学院



熊本第二

2 日目（予選、準決勝、決勝、キーノートスピーチ、閉会式）

2 日目は予選ラウンド 4 から始まります。論題「Companies should not do business with countries where there are human rights violations. 企業は、人権侵害がある国と取引をすべきでない。」のもと、昨日の反省点を踏まえ、熱いディベートが繰り広げられました。



2 日目の予選終了後も、休憩を兼ねたレクリエーションが行われました。今回は生徒たちだけではなく、各学校の先生たちも参加し、予選ラウンドの出来具合やお互いの文化について意見交換をしました。

休憩をはさみ、緊張のブレイクアナウンスメント（予選の結果発表）が行われ（結果は下記）、準決勝が始まりました。準決勝の論題は、「Developing countries should take the same responsibilities as developed countries on global warming. 地球温暖化について、発展途上国は先進国と同じ責任を負うべきである。」でした。準決勝に進出できなかったチームも、メモを取りながら準決勝を見学し、試合後に意見交換をする様子も見られました。



教員集合写真

Breaking 4th

3 wins 166 pts

India

12:40~13:40

Semi Final

PDA

Supporter to 日本 THE SUPPORT FOUNDATION KDDI KDDI Foundation

Debate Semi Final Rounds

Developing countries should take the same responsibilities as developed countries on global warming.



聖光 対 ベトナム

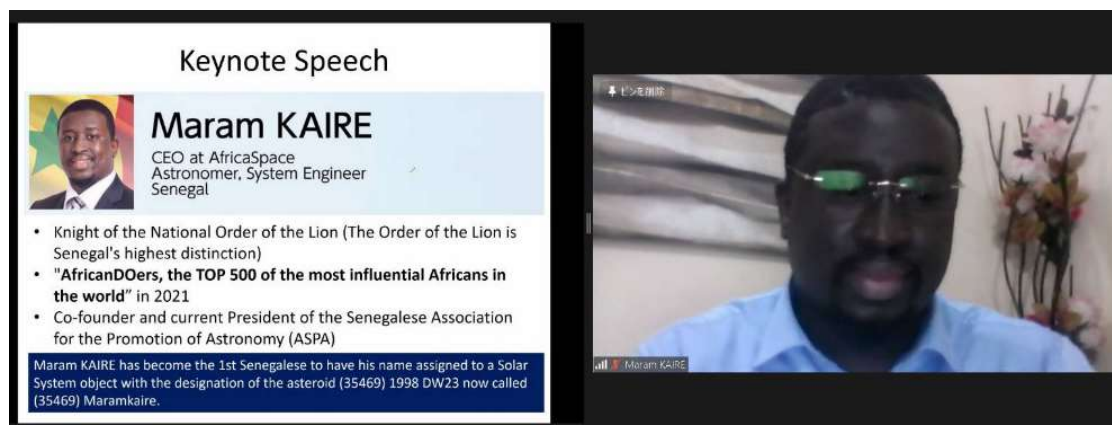


インド 対 モロッコ1

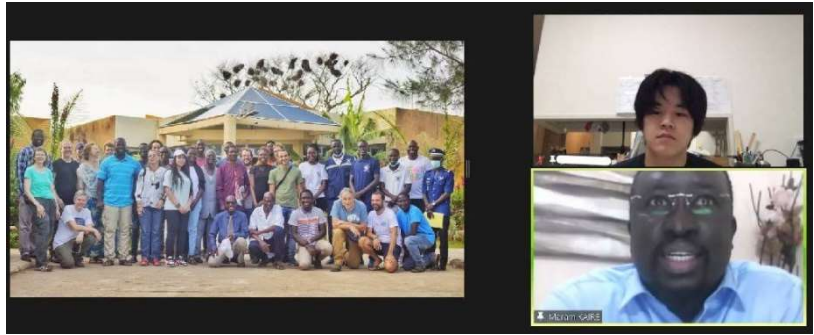
予選結果

順位	チーム名	勝利数	合計点
1st	聖光	4	172
2nd	Morocco 1	4	163
3rd	筑波大学附属駒場	3	176
4th	India	3	166
5th	Vietnam	3	157
6th	Trinidad and Tobago	3	156
7th	Philippines 2	2	172
8th	作新	2	162
9th	Romania	2	153
10th	Uganda 1	2	150
11th	Thailand	2	147
12th	大島	2	144
13th	Brazil	1	153
14th	Morocco 2	1	150
15th	熊本第二	1	144
16th	Colombia	1	140
17th	Ukraine	1	125
18th	Uganda 3	1	120
19th	Uganda 2	1	104
20th	Tajikistan	0	97

決勝の前に、キーノートスピーカーである Maram KAIRE 氏のご登壇があり、アフリカの発展において、宇宙技術がいかに重要かをお話しされ、衛星を使った、アフリカで行われているプロジェクトをご紹介頂きました。

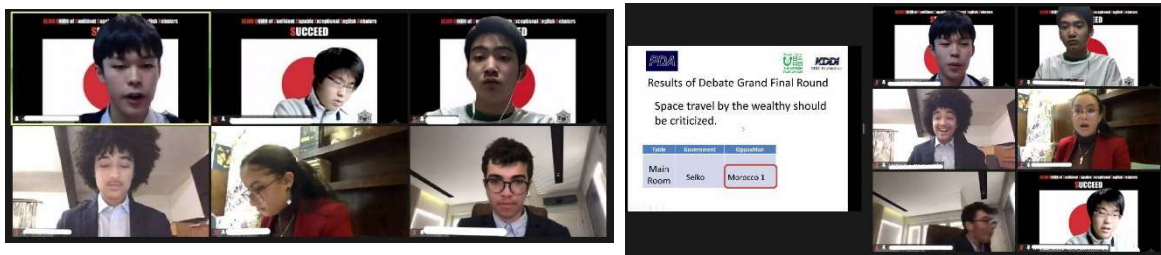


The image shows a presentation slide on the left and a video call window on the right. The slide is titled "Keynote Speech" and features a portrait of Maram KAIRE. Below the portrait, his name "Maram KAIRE" is displayed in large letters, followed by his title: "CEO at AfricaSpace, Astronomer, System Engineer, Senegal". A bulleted list of achievements follows, including being a Knight of the National Order of the Lion, being named in "AfricanDOers, the TOP 500 of the most influential Africans in the world" in 2021, and being a co-founder and president of ASPA. A blue box at the bottom of the slide states: "Maram KAIRE has become the 1st Senegalese to have his name assigned to a Solar System object with the designation of the asteroid (35469) 1998 DW23 now called (35469) Maramkaire." The video call window shows Maram KAIRE speaking, with a name tag at the bottom that reads "Maram KAIRE".

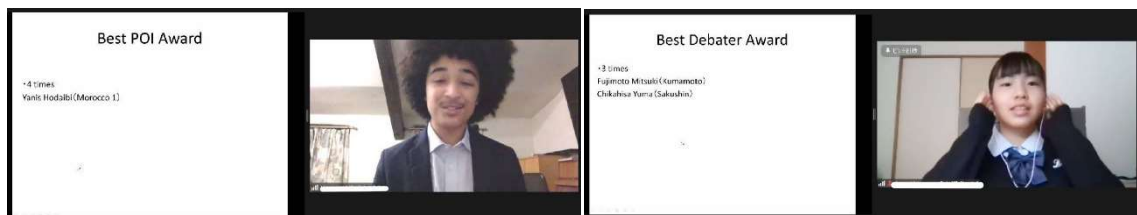


質問をする参加者

キーノートスピーチの後はいよいよ決勝(聖光 vs モロッコ 1)です。決勝の論題は「Space travel by the wealthy should be criticized. 富裕層の宇宙旅行は批判されるべきである。」でした。張り詰めた緊張感の中、全ての参加者が2日間一緒にディベートを行い、勝ち上がったチームのスピーチを真剣な眼差しで見つめていました。ジャッジの満票で優勝者はモロッコ 1 に決まりました。



閉会式では、表彰式とチーフジャッジの綾部先生より講評がありました。また、各賞受賞者から喜びのコメントを頂きました。最後に、PDA 代表理事中川から「来年もお会いできることを楽しみにしています。これからも頑張ってください。」とエールが送られました。



今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりましたが、大盛況のうちに世界交流大会は幕を閉じました。大会に参加された世界の高校生、引率の先生、キーノートスピーカーの皆様、この世界交流大会を助成、後援、応援くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第7回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会〔結果〕

チーム賞

優勝：モロッコ1

準優勝：聖光学院高等学校

準決勝出場チーム：インド、ベトナム

個人賞

ベストディベーター賞

・ 3 times

Fujimoto Mitsuki (Kumamoto)

Chikahisa Yuma (Sakushin)

Tsutagawa Seiichiro (Komaba)

Pham Thuc Ha Vy (Vietnam)

Sachit Verma (India)

Alia Kafil (Morocco 1)

・ 2 times

John Vianney Jandayan (Philippines 2)

Tomohito Umemura (Seiko)

Naoki Hatada (Seiko)

Ainomugisha Michelle Singa (Uganda 1)

Joshua Dowlath (Trinidad and Tobago)

Dasha Nino (Colombia)

Manal Margani (Morocco 2)

Jaikaew Buaniaw (Thailand)

Dula Andreea Maria (Romania)

POI 賞

・ 4 times

Yanis Hodaibi (Morocco 1)

- 3 times
 - Sirad Mamalampac (Philippines 2)
 - Okamura Ibuki (Oshima)
- 2 times
 - John Vianney Jandayan (Philippines 2)
 - Chikahisa Yuma (Sakushin)
 - Marvin Joseph Senoga (Uganda 3)
 - Vu Khanh Linh (Vietnam)
 - Sachit Verma (India)
 - Andrés Díaz (Colombia)
 - Manal Margani (Morocco 2)
 - Dula Andreea Maria (Romania)
 - Molnár Dániel (Romania)

文化賞

作新学院高等学校

フィリピン

ウクライナ

ウガンダ

第7回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会〔感想〕

世界交流大会の感想（抜粋）

（生徒）

- 海外の学生と意見交換をするのは初めての経験でした。だから、彼らとディベートを通してコミュニケーションが取れたことがとても嬉しく、興奮しました。各国の学生の文化や意見など、さまざまなことを理解することができました。とても貴重な体験でした。（日本）
- 外国の高校生と交流し、情報交換ができて楽しかったです。カルチャーナイトでの発表で、他の国のことを知ることができてとても面白かったです！（日本）
- 世界中の同世代の人たちとディベートをすることができ、普段は違う言葉を話す人たちと共通理解を作ることができた。とても新鮮な体験だった。たくさんの方の人とより良い将来について議論し将来を背負う世代としての自覚を持つことができた。（日本）
- ラウンド後の個人コメントでは、自分の良いところやアドバイスを聞くことができ、とても勉強になりました。（日本）
- 競争力のある人たちとディベートをするのはとても楽しかったです。とてもいい経験で、多くのことを学べた気がします（ルーマニア）
- スピーチ中の自分が話している間、みんなから尊敬されていると感じたから。（タイ）
- 他の国の人たちと話ができるブレイクアウトルーム（交流会）が大好きです。とても楽しくて、みんないい人たちばかりでした。（タイ）
- トピックはとても興味深く、ブレイクアウトルーム（交流会）では他の国について学ぶことができました。（コロンビア）
- 私にとって最も楽しかったのは、さまざまな国の人たちと交流できたことで、これは今までにない機会でした。PDAWC は私にこのような機会を与えてくれ、ディベートを好きになることができたので、とても感謝しています。他のディベーターたちとの交流は、魅力的で、有意義な議論に興味を持つことができました。（トリニダード・トバゴ）
- とても楽しく、他の国のことを知り、交流することができただけでなく、素晴らしいディベートの経験や素晴らしいジャッジの方々を知ることができました。ラウンドごとに異なる役割や立場を演じたり、他の国と交流したり、ジャッジの意見を聞いたりすることができたので、本当によかったと思います。（トリニダード・トバゴ）
- さまざまな国籍の人と知り合うことができ、ディベートのレベルやジャッジのプロ意識に感銘を受けた（インド）。
- ディベートはよく練られており、ジャッジも公正で、何よりジャッジが個別に発言してくれたのがよかった。（インド）

- このイベントに参加したさまざまな国から来た人たちとの交流は、とても楽しかったです。また、スタッフの方々もとても親切で、楽しませてくれました。私が PDAWC に参加して一番楽しかったのは、あるトピックについて、異なる国籍の人たちが、その平和を壊すことなく、矛盾した意見を出し合うのを見ることができたことです。(フィリピン)
- 見学としての参加でしたが、私の考え方が、肯定側、否定側の両方から届けられるかもしれないことがよかったです。自分が思っていることを、自分が言っていなくても他の人が言ってくれるのは、いつも楽しいものです。(フィリピン)
- 私はこの大会のすべてが好きです。ジャッジの方々は、愛をもってすべてを明確に説明してくれました。他の学校の生徒と話し、他の国の文化について知ることができたのも興味深かったです。一番気に入ったのは、ディベートのルールと、それが今日どのように使われているかということです。今大会で一番盛り上がったのは、最終日の第4ラウンドで、とても難しいテーマになるのではと心配しました。(ウクライナ)
- たくさんの人に出会えるし、新しい文化やディベートスタイルに出会えるのが楽しいと思います。(ベトナム)
- 世界各国から来た新しい人たちと出会い、学び、異文化を知る、とても楽しい経験でした。(ウガンダ)

(教員)

- ディベートのラウンドとキーノートスピーチは素晴らしかったです。いつものように、PDA は雰囲気をもよく保ち、物事を整理して時間通りに進めるという素晴らしい仕事をしています。(日本)
- いろいろな国のディベーターを見ることができ、楽しかったです。(日本)
- いろいろな国の学生のディベートを聴くことができるのは、とてもいい機会でした。(日本)
- 私の生徒が他の国の生徒と交流し、自分たちの文化を発表し、他の国の文化も学ぶ機会があるのを見たことがよかったです。(タイ)
- ディベートを通じた意見交換のほか、ディベート以外の交流は、私や生徒が世界中のさまざまな背景を持つ人々の話を聞く機会を与えてくれるので、有意義なものだと思います。(フィリピン)

(キーノートスピーチ)

- 宇宙技術の開発がなぜアフリカで重要なのか知りませんでした。衛星が彼らの産業と発展に役立っていることを知りました。この講演は興味深く、有意義なものでした。(日本)

- 宇宙科学がいかに重要で有用であるかということがよく分かった。日本の機関がアフリカの宇宙開発を支援していることを知り、嬉しく思います。(日本)
- 宇宙物理学者を目指している私にとって、キーノートスピーチはとても有益で興味深いと思いました。宇宙開発が次の大きな革命であるという見解には、本当に感心させられました。(トリニダード・トバゴ)
- とても素敵で楽しかったですし、同時に多くのことを学びました。(フィリピン)

